



「本」になっていただいた方のほとんどが、もう一度「本」になることについてOKの回答をしていただくことが出来、この企画が「読者」にとってだけでなく、「本」として参加する者にとっても有意義なものだということ

をあらためて実感しました。

参加した方たちの中にはブログに感想を書いている人もいて、「多様な立場の人たちが短い時間の中で出会い、話をし、話を聞き、理解を深めるにはもってこいのプログラムと再認識した」「すごく楽しかった」などと感想を書いています。どんどん「生きている図書館」を広めてくださってありがとうございます。

次の開催は、まだ、具体的になっていません。

年度内にあと2, 3回開催できたらと思っていますが、予算がありません。どこかと共催できればかなうかもしれません。

それよりも、具体的な作業を始めたのが「生きている図書館実施手引書」作りです。年度内発行をめざしてやっていきます。

\* \* \* \* \*

連絡先 NPO APIS 内「生きている図書館」プロジェクト

電話：06-6924-5551（月・水・金10:00-17:00）

FAX：06-6924-5556

Mail：npo-apis0601@kiki.biglobe.ne.jp

URL：http://www.apis-npo.org/LL.html

「生きている図書館」プロジェクト

木村ゆかり、倉田めば、グロエンダルトム(緑谷都夢)、佐々木興子、朴宗筈、朴宗美、山本房子、横山恵子

日本語による「生きている図書館実施手引書」発行事業は平成 21 年度大阪市民活動推進基金事業補助を得ています



\* \* \* \* \*

# 生きている図書館 プロジェクト

REPORT Vol.2 2009.9.7

\* \* \* \* \*

## 「生きている図書館」を実際にやってみました!!

\* \* \* \* \*

2009年8月1日のことです。場所は大阪市中央区のドーンセンター。2ヶ月しかない準備期間で出来るのか？ いや、やるしかないメンバー一同フル回転で準備にあたりました。

東京大学先端科学技術センターに参加したメンバーからの報告をもとに必要な作業のリストアップ、分担と進めました。その後、京都大学でも実施されるとの情報を得て参加を申し込み、主催者と連絡を取り、見学という形で実施の様子を見させてもらいました。

実際に参加したり見学出来たことが、当日の準備にとっても参考になりました。

お世話になった中邑さん、巖淵さん、平井さん、丸山さんありがとうございました。





準備期間の苦労はそれなりにあったのですが、何より実感したのは、準備する中で多くの方たちと新たに知り合うことが出来たり、より緊密な連携が取れるようになったということです。「生きている図書館」

実施当日はもちろん、その過程においても関わる者に多くのことを与えてくれるイベントです。

「本」として参加していただく方は21名にもなりました。メンバーが知り合いや人づてに声をかけたり、これまで関係のあった団体から紹介していただいたりして予想以上の方に快く引き受けていただきました。

会場となったドーンセンターは正式名称が「大阪府男女共同参画・青少年センター」という府立の建物で、日頃から講座や会議で使っている施設です。その4階に受付を設定し、1階の入り口近くのスペースも読書スペースとして使えるように準備しました。「生きている図書館」の始まりがロックフェスティバルだったように、屋外のイベント会場で、たまたま通りがかった人でも参加できる図書館が望ましいと考えていますが、今回は適当な機会はなく、屋内での実施となりました。初めての運営なので、よく知っている施設であることは安心でもありました。

当日の参加者数がどうなるか、あるメンバーは「多すぎて混乱が起きたらどうしよう」と不安を口にし、またあるメンバーは「閑古鳥が鳴くようだったらどうしよう」と不安になっていました。

結果、「読者」登録をしたのが42名、貸し出しのべ回数が137回でした。「本」の方1名が当日都合が悪くなって「本」の数は20冊でした。6回の貸し出し機会の全てを利用して6冊の「本」を読んだ「読者」もいました。また、貸し出し希望が多



く、6回の貸し出し機会の全てが3名の「読者」によるシェアとなった「本」もありました。参加者のアンケートから主な感想を紹介します。

- ・あっという間に時間がたってしまった。もっと読みたかったです。
- ・多様性を知ることが大事であり、それはその人に聴いてみるのが一番近道なことだと心にしみました。
- ・自分の中にあるイメージや先入観がいかげんな情報からなりたっているということがとてもよくわかりました。
- ・どのような会になるのかと少しドキドキしてましたが、とても素敵な会だったと思います。似たような「本」が少し多かったように思います。「本」の種類を増やした次の「図書館」を期待しています。
- ・共感的に聞いてもらえる事で、うれしい気持ちになった。自分の考え？ 想いや感じてきた事を整理する良いキッカケになった。
- ・自分の事を聞いてもらえて、さらに自分を肯定できました。
- ・接点のなかった人、事が身近になった。
- ・生き方は人それぞれだけど、ロールモデルとなる人を見つけられると新しい発見が増える。
- ・“知らない”を知る。知った知識を活かす知恵が欲しいと感じます。
- ・それぞれの立場の側から物事を見ることが大切。
- ・見事に「イメージ」をうちやぶってくれた。

